

日羽協試験方法	鳥種鑑別試験方法	JDFA-TM002 2018/12
---------	----------	-----------------------

序文

水鳥羽毛の鳥種（グース・ダック）を鑑別して、混合率から日羽協の鳥種表示基準を判定する試験方法を定める。混合率は限定された試料量に基づくもので、試料全体の鳥種混合率を表すものではない。

引用資料：

JIS L 1903 羽毛試験方法

IDFB Part 12 Feather and Down Species

1. 装置

- (1) 電子はかり（電子天びん） 0.2mg までひょう量できるもの。
- (2) 組成選別用キャビネット
- (3) 60 倍以上の投影器又は顕微鏡

2. 試料の準備

試験に用いる羽毛は、日羽協試験方法（JDFA-TM001 試験のためのサンプリング方法）によって採取し、均一に混合する。試料を標準状態の試験室で、空気が通過しやすく羽毛が飛散しないような容器に収納し、恒量になるまで放置する。

3. 試験試料の採取

- (1) 組成混合率試験の終了した羽毛を使用する場合
JIS L 1903 組成混合率試験の 1 次選別（3.0 g × 2 個）で選別した後のフェザーと 2 次選別（0.2 g × 2 個）で選別した後のダウンより試験試料を採取する。
- (2) 組成混合率試験の終了していない羽毛を使用する場合
2. で準備された試料から、約 1g の試験試料 1 個を上層、中層、下層の各分からランダムに採取する。約 1g で充足できない場合は、さらに試験試料を採取する。

4. 試験手順

4-1. ダウンに対する鳥種の鑑定

- (1) 試験試料を平らな台の上に均一に広げる。
3-(1)の場合、4 角対分法により 4 等分し、その一つを試験試料とする。ダウンが大きくて試験試料が不足の場合対角の 1/4 をとり追加する。
3-(2)の場合、4 角対分法により 4 等分し、その中の一つを更に 4 等分して試験試料とする。試験試料が不足の場合対角の 1/4 をとり追加する。
この試験試料から 50 個のダウンをピンセットでピーカーの中に拾い出す。この時、大きなダウンばかりを取ったり、試験者の主観が入ったりして無作為出なくなる恐れがあるので、ランダムに採取するように特に注意が必要。
- (2) 組成混合率試験が終了していない場合、ダウンに付着しているファイバーやきょう雑物をとり除ききれいにする。
- (3) 投影器又は顕微鏡で一個ずつグースかダックかを鑑定する。
- (4) 鑑定したダウンをグース、ダックそれぞれのピーカーに入れる。50 個のダウン全てについて鑑定する。
- (5) 鳥種が不明（鑑定不可能）なダウンは鑑定の対象外とし、不足な個数を補充し合計 50 個とする。

なお鑑定にあたっては、節以外にも、小羽枝の織度、小鉤などでも鑑定可能である。

鳥種鑑別の基準図参照

- (6) 鑑定の結果、グース又はダックのいずれかが数量で 6%（3 個）以上混入しているときは、同様にしてさらに 50 個のダウンを採取し合計 100 個のダウンについて鑑定する。

- (7) 鑑定の終了したそれぞれのダウンの質量をひょう量し、次の式によって鳥種の混合率を求める（小数点以下1桁に丸める）。

$$\text{グースダウン (\%)} = \frac{a}{a+b} \times 100$$

$$\text{ダックダウン (\%)} = \frac{b}{a+b} \times 100$$

a: グースダウンの質量 (g)

b: ダックダウンの質量 (g)

4-2. フェザーに対する鳥種の鑑定

- (1) 試験試料を組成選別用キャビネットの中に均一に広げて、この中から無作為に、20個のフェザーをピンセットでピーカーの中に拾い出す。この時、試験者の主観が入ったりして無作為出なくなる恐れがあるので、ランダムに採取するように特に注意が必要。
- (2) 組成混合率試験が終了していない場合、フェザーに付着しているファイバーやきょう雑物を取り除ききれいにする。
- (3) 投影器又は顕微鏡で一個ずつグースかダックかを鑑定する。
- (4) 鑑定したフェザーをグース、ダックそれぞれのピーカーに入れる。20個のフェザー全てについて鑑定する。
- (5) 鳥種が不明(鑑定不可能)なフェザーは鑑定の対象外とし、不足な個数を補充し合計20個とする。もし陸鳥の混入があれば別途鑑別する。
なお鑑定にあたっては、節以外にも、小羽枝の織度、小鉤などでも鑑定可能である。
鳥種鑑別の基準図参照
- (6) 鑑定の結果、グース又はダックのいずれかが数量で10%(2個)以上混入しているときは、同様にしてさらに20個のフェザーを採取し合計40個のフェザーについて鑑定する。
- (7) 鑑定の終了したそれぞれのフェザーの質量をひょう量し、次の式によって鳥種の混合率を求める（小数点以下1桁に丸める）。

$$\text{グースフェザー (\%)} = \frac{c}{c+d} \times 100$$

$$\text{ダックフェザー (\%)} = \frac{d}{c+d} \times 100$$

c: グースフェザーの質量 (g)

d: ダックフェザーの質量 (g)

5. 試験結果

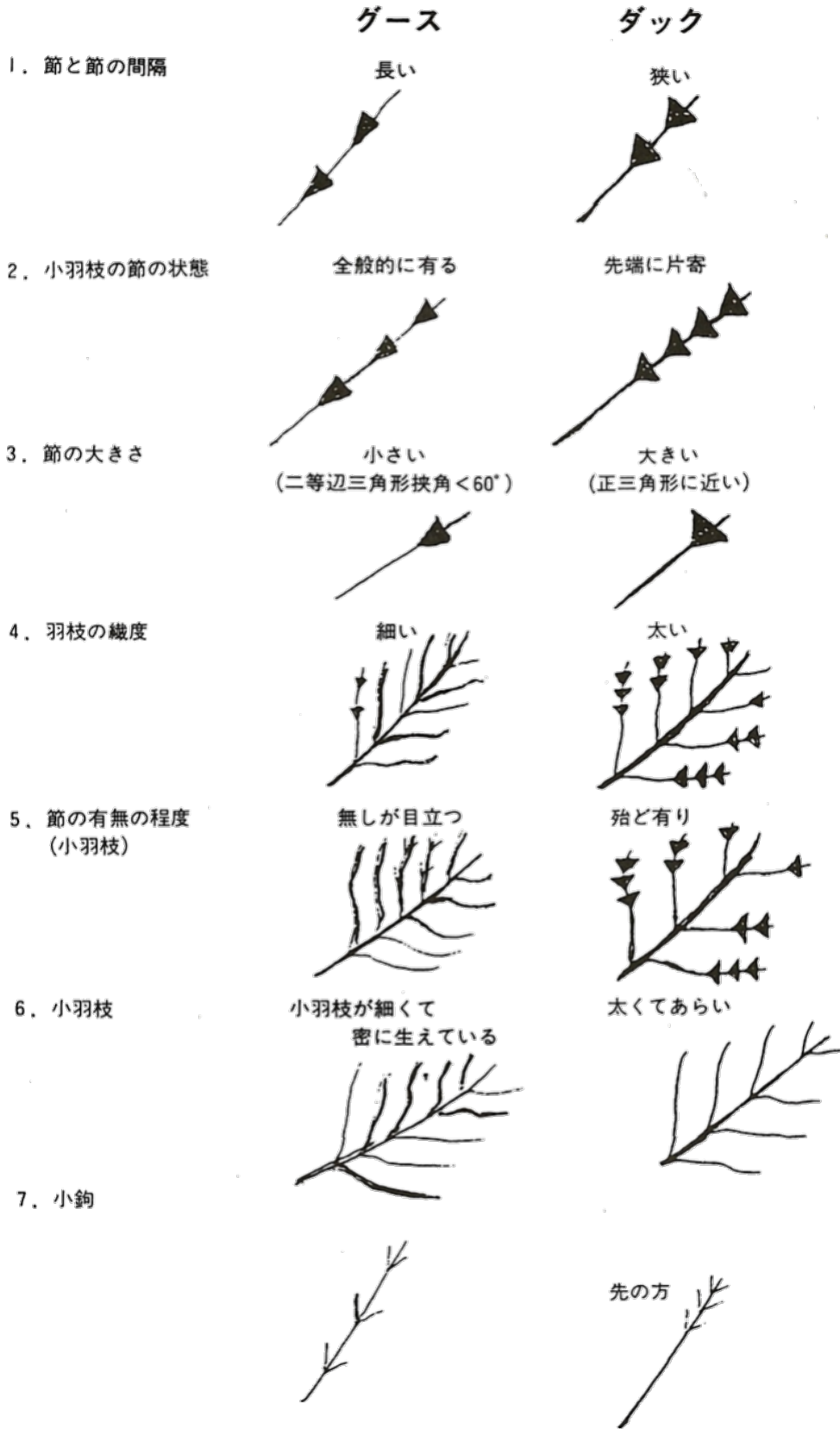
鑑定結果は下記の通りに報告する。

グースダウン	XX. X %
ダックダウン	XX. X %
グースフェザー	XX. X %
ダックフェザー	XX. X %

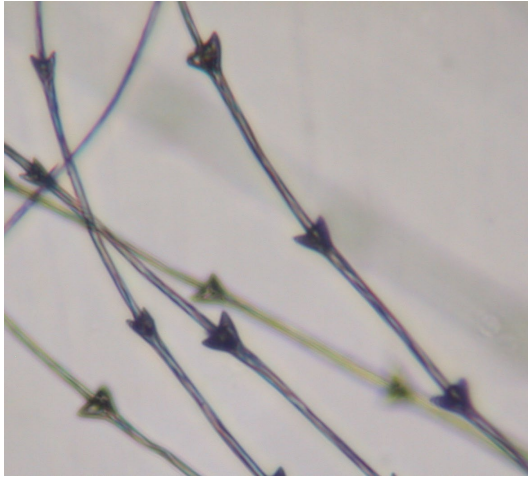
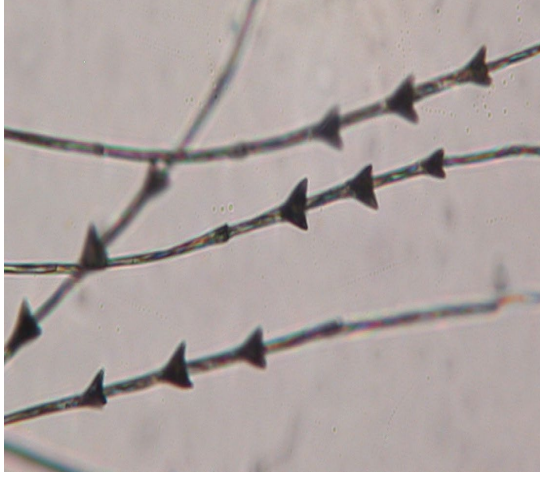
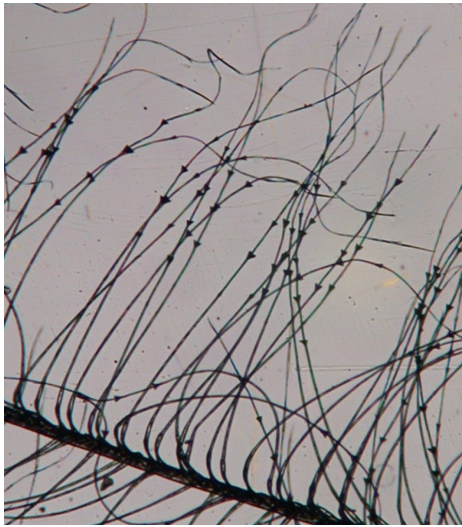
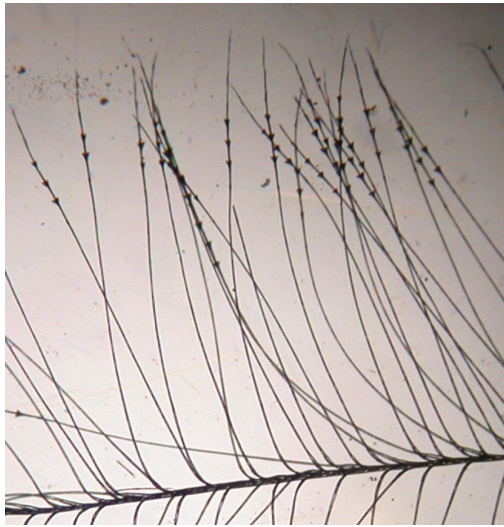
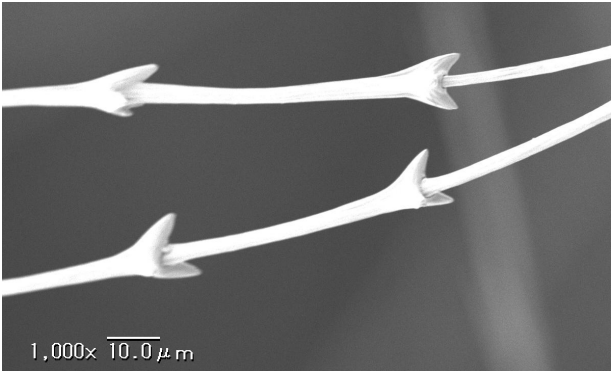
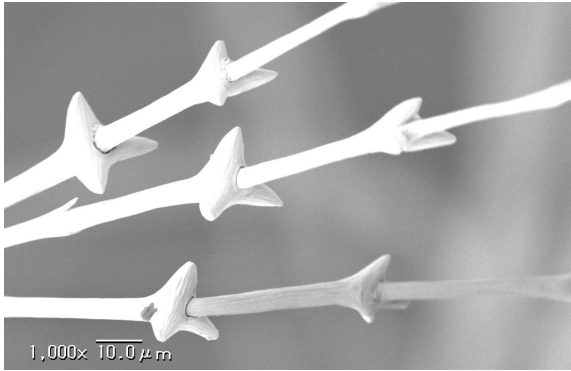
6. 日羽協鳥種表示基準値


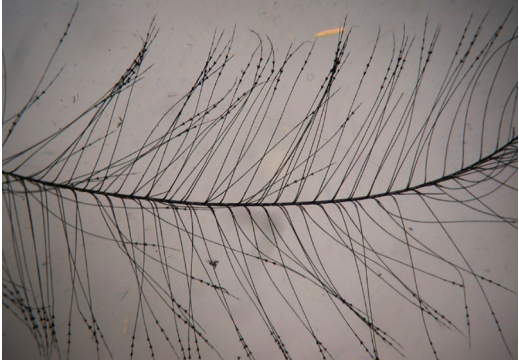
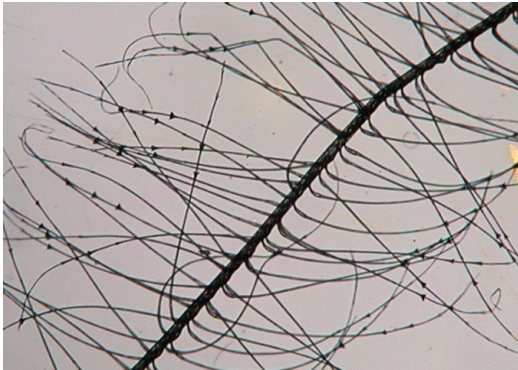
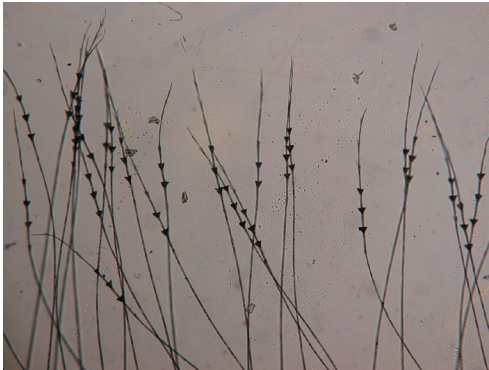
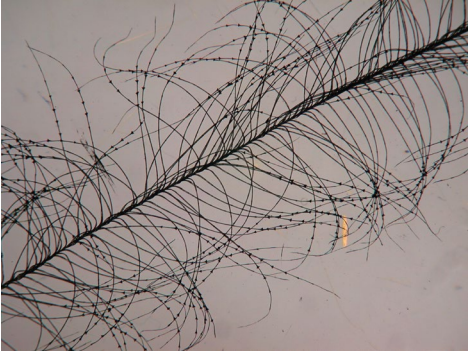
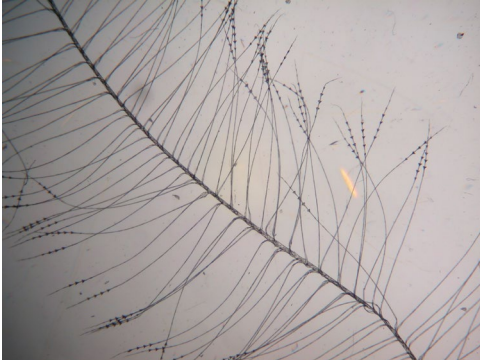
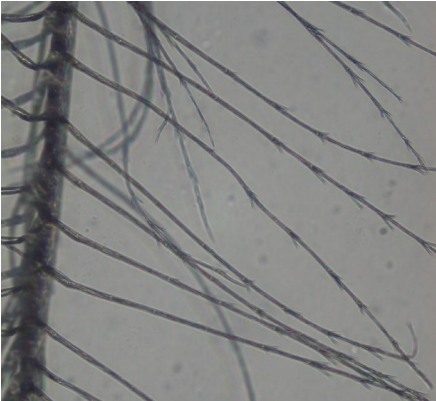
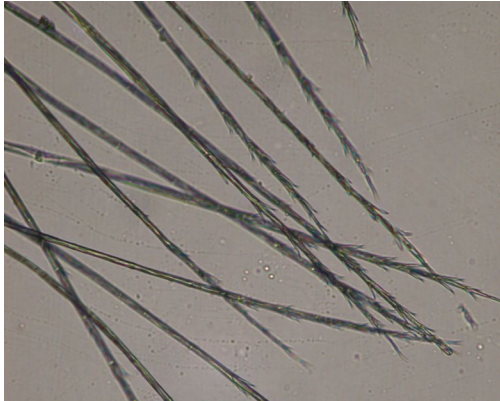
ダウン、フェザーいずれも同一種の羽毛を 90.0%以上含む時はその種を表示する。

鳥種鑑別の基準図



鳥種鑑別の基準写真

グース (Goose)	ダック (Duck)
<p>1. 節と節の間隔</p> <p style="text-align: center;">広い</p> 	<p style="text-align: center;">狭い</p> 
<p>2. 小羽枝の節の状態</p> <p style="text-align: center;">全体にある</p> 	<p style="text-align: center;">先端にある</p> 
<p>3. 節の大きさ</p> <p style="text-align: center;">三角形の角度が小さい ($< 60^\circ$)</p> 	<p style="text-align: center;">三角形の角度が大きい (正三角形)</p> 

<p>4. 羽枝の繊度</p> <p>細い</p> 	<p>太い</p> 
<p>5. 節の有無の程度 (小羽枝)</p> <p>無が目立つ</p> 	<p>殆ど有る</p> 
<p>6. 小羽枝</p> <p>小羽枝が細く密に生えている</p> 	<p>太くて粗い</p> 
<p>7. 小鉤</p> <p>全体にある</p> 	<p>先端に片寄る</p> 

以上 (2018/Dec/12)